

2. 地下水位計算の信頼性

解析における初期の地下水位（工事前の地下水位）は、実測値ではなく、計算上の推定値である。計算結果もいくつかの仮定を置いた上での計算値であるため、地下水位の計算結果の信頼性は高くない。工事前・中・後の地下水位変化値が出てきたことは評価したい。

また、JR東海のモデルでは断層による地下水位変化への影響は考慮できていない。参考図は、静岡市が別のモデルを用いて解析したものである。このモデルでは、断層に沿って地下水位が低下しており、JR東海のものとは明らかに解析結果が異なる。

また、JR東海は畑薙山断層はトンネル内湧出量が大きいため、山梨県側からの「登り勾配」で掘らなければ危険であると説明している。しかし、JR東海の解析結果によれば、トンネル掘削完了時の地下水位低下予測値（P. 37 図 37）で見る限り、「下り勾配」で掘る荒川岳北部の地下水位低下の方が大きい。地下水位低下が大きい、すなわち、トンネル湧水が大きいところを「下り勾配」で掘るとし、より地下水位低下が小さい畑薙山断層付近は「下り勾配」で掘るのは危険としている。自己矛盾があると言わざるを得ない。

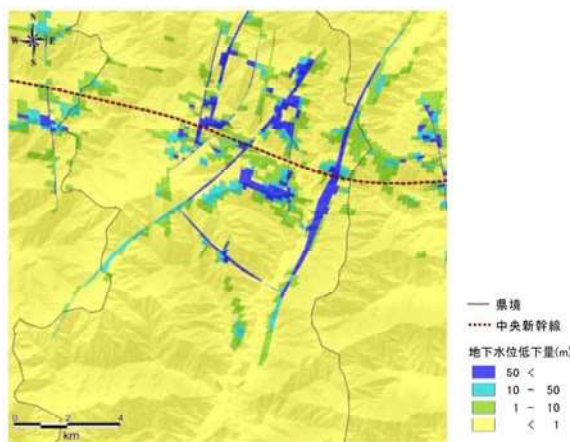


図 10 地下水位の低下量分布（低水期：導水路トンネルまで掘削）
（本坑トンネル、導水路トンネル付近のみの拡大図。現況との差を示す。断層沿いに地下水位の低下が生じている。）

【出典】

（左図）静岡市 平成 28 年度南アルプス環境調査結果報告書VI水資源調査 VI-14 図 10 地下水位の低下量分布（低水期：導水路トンネルまで掘削）（2012 年 1 月 1 日の気象条件による）

（右図）JR東海資料 第 4 回 第 4 回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議 資料 3-2

p 41 図 41 地下水位（計算上）予測値低下量図予測値（トンネル掘削完了 20 年後）

※ JR 東海資料は解析前の初期状態地下水位を地表面として低下量を表示している

※ 静岡市資料は工事前からの低下量を表示している

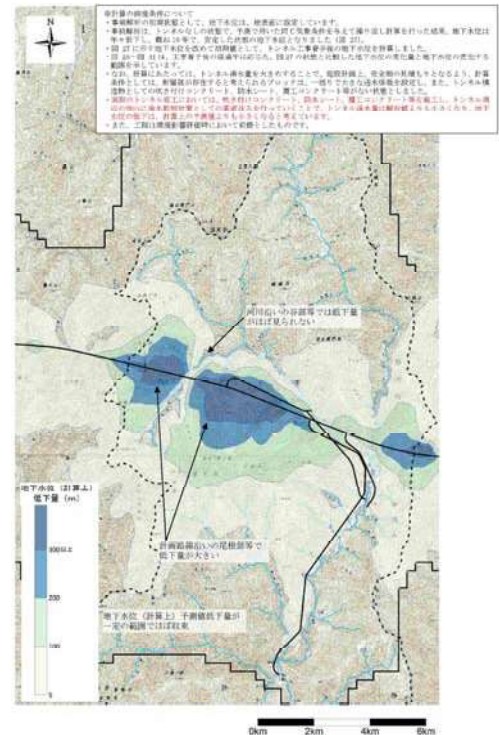


図 41 地下水位（計算上）予測値低下量図予測値（トンネル掘削完了 20 年後）